資料1

小中学校における静岡茶の食育と愛飲の促進について

（令和3年度第2回県民会議資料）

説明項目

○報告事項

（1）令和3年度第1回県民会議の結果

（2）令和3年度（後期）の取組報告

○協議事項

（1）通年での愛飲の取組の拡大について

（2）静岡茶の食育機会の確保の取組について

（3）新たな認定制度について

1　令和3年度第1回県民会議の結果

○開催日、出席者

・開催日　第１回：令和３年11月15日（月）
・委　員　村松会長他（出席者11名）オブザーバー：教育長、農林水産担当部長

○主な意見

区　分	内　　容	対応番号
通年での静岡茶の愛飲に向けた提案	• 茶産地と茶産地以外の状況を捉えた取組が必要	①②⑦
	• 地域や家庭によってお茶に対する意識が異なるため、愛飲に対する取組について保護者に理解していただくことが必要	①③
	• マイボトル持参運動を推進するためには、家庭の協力が重要であり、ティーバッグや粉末茶など使い勝手の良いお茶の利用が望ましい	③
	• インフルエンザの予防効果や緑茶の新型コロナウイルスに対する研究成果などの正しい情報発信が必要	⑨
	• 過去にお茶の淹れ方教室を受けた保護者に対して、お茶に対する意識の変化を調査してはどうか	―
静岡茶の食育機会の確保に向けた提案	• 子供たちがお茶の淹れ方や効能、文化等について自ら学び、家庭や地域で広めていくことが大切	①⑥⑦⑧
	• お茶を飲むことを習慣化するためには、家庭の協力や、学校の教員への理解を促すことが重要（特に養護教諭等への研修が必要）	②④
	• 児童生徒や教員が使えるデジタル教材の充実が必要	⑤

2 令和3年度（後期）の取組報告
①児童生徒向け静岡茶講座の実施

・ 学校、家庭、地域が連携した静岡茶の愛飲・食育の取組を強化
・「食料産業・6次産業化交付金」を活用し、児童生徒、保護者を対象とした静岡茶講座を実施

区　分		内　　容
期　間		令和3年11月5日から令和4年1月27日まで
対　象		東部、伊豆地域の公立小中学校・県立特別支援学校の児童生徒及び保護者　※茶産地以外の地域を中心に実施 開催を希望する学校にて実施（15校計19回）
講座	講　師	JAなんすん（講師5～6名／回）
	対象人数	30名程度（45～50分／1コマ）
	講義内容	静岡茶の概要、お茶の種類、お茶のおいしい淹れ方実習等
	進 め 方	児童生徒等がおいしいお茶の淹れ方を実践

② 食育担当者向け静岡茶講座の実施

・県と教育委員会、日本茶インストラクター協会、市町が連携し、各学校の食育担当教諭の実践力向上に向けた講習会を開催

区　分		内　　容
期　間		令和3年11月19日から12月16日まで
対　象		公立小中学校・県立特別支援学校の食育担当教諭 （静東管内：地区教育会館等において、地区ごと別日程で開催、計8回） ※9.10月に予定していた静西管内は緊急事態宣言により中止
講座	講　師	日本茶インストラクター、日本茶アドバイザーを取得した栄養教諭等
	対象人数	20～35名程度（160分）
	講義内容	お茶に関する基礎知識、お茶のおいしい淹れ方実習
	進め方	お茶のおいしい淹れ方について模擬授業形式で実習

③ 国事業を活用した県内全ての小中学校へのお茶の提供

県内全ての小中学校にお茶を提供

・国の「国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業」を活用し、経済連やJA、茶業団体等が中心となり、県内小中学校や特別支援学校の全児童生徒に静岡茶を無償提供（令和3年6月28日～7月16日）

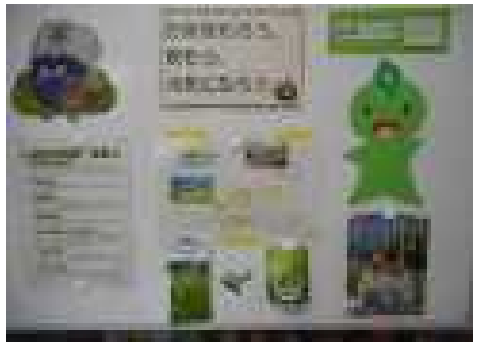
←保護者向けにお茶の淹れ方を記載したおたよりを作成し、家庭での愛飲の取組や水筒によるお茶の持参を呼びかけ

・各学校に対し、愛飲を推進する期間の設定を推奨

【事例1】 浜松市立北浜中学校

保護者宛文書に記載された内容について動画を作成（冷茶の作り方）し、給食時間にビデオを視聴した。

ビデオ視聴後には、学級担任が「お茶の効能・効果」の掲示資料を活用して説明し、提供されたリーフ茶を家庭に持ち帰った。



④ 小中学校への静岡茶食育資料の配布

・お茶の食育に関する情報や指導事例を取りまとめた資料を配布（市町教育委員会経由で全小中学校（特支含む）へ送付 ）

※お茶の歴史や産地、種類、効能が学べる冊子、お茶の食育に関する取組事例集、お茶を使ったレシピのHP等を掲載

お茶の提供にあわせ、
教育現場におけるお茶の
食育活動への活用を依頼

教員向け・子供向けそれぞれの
デジタル教材を作成・配布

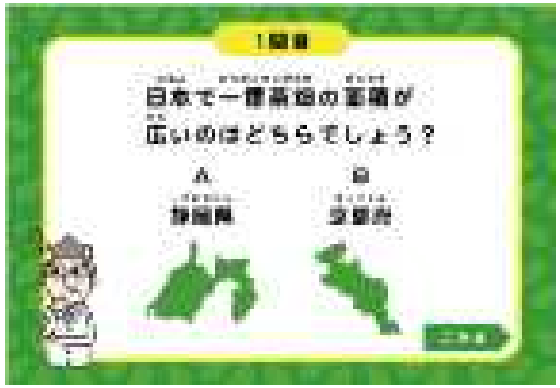
⑤ 小中学校へ静岡茶食育デジタル教材の配布

・クイズや動画等を用いた食育教材（デジタル教材）を作成し、公立小中学校、特別支援学校へ配布（令和４年３月９日）

※お茶のおいしい淹れ方やお茶の種類、機能性、静岡茶の産地等について、小中学生がタブレットを利用して学習

※教員が授業等で活用

●静岡茶クイズ【パワーポイント】



●日本茶の種類【動画】

●お茶のおいしい淹れ方【動画】

⑥ 学校における静岡茶の食育の取組①

裾野市立東小学校　対象者：5年生児童

・栄養教諭が淹れ方を説明し、班ごとにお湯を沸かして、急須でお茶を淹れる実習を実施
・4年生の総合学習でお茶について勉強したので、実際に自分でお茶を淹れる体験ができ、うれしそうに味わうことができた

おいしいお茶をいれよう！

【児童の感想】
・一煎目と二煎目が、違う味で、個性があっておいしかったし、楽しかったです。
・おいしいお茶を飲むためには、いろいろな工夫があることを知りました。お湯を入れ替えて冷ましていくことにおどろきました。
・同じお茶の葉でも淹れ方で、味や色がかわりました。

授業で使用したワークシート

⑥ 学校における静岡茶の食育の取組②

浜松市立大平台小学校　対象者：全校児童

・1月の学校給食週間で『お茶を楽しむ献立』をテーマとした給食を提供
・お茶の産地や効能・効果促進の資料を配布したり、学校の給食ブログにも掲載し、静岡茶の理解を促進

お茶を使った給食

【献立】
・ご飯
・緑茶
・太刀魚の茶塩かけ
・おひら
・茶そうめん汁
・抹茶まんじゅう

【児童の反応】
・飲料用の緑茶が楽しみという児童が多かった。
・給食をみて「今日は、みどりの献立だね。」「どうして、みどりの献立なの？」と関心を持つ子もおり、お茶の話をするきっかけとなった。

⑥ 学校における静岡茶の食育の取組③

静岡市立豊田中学校　対象者：中学1年生

・お茶への関心を高め、お茶を飲む習慣につなげられるように、授業でパソコンを使用したお茶クイズを実施

お茶クイズに挑戦！

【生徒の感想】
・クイズは結構難しかったです。でも、このおかげで、ふだん何気なく飲んでいたお茶をもっとおいしく感じることができそうです。
・幼稚園のときにお茶摘みの体験をしたので、お茶の知識は少しだけありました。日本の伝統だと思 うので、もっとお茶について知りたいです。
・お茶カルタ大会に参加したことを思い出しました。今度また、急須でお茶を入れてみようと思います。
・お茶のことをしれてよかった。お茶を飲むときこのクイズを思い出し、飲んでいるうちに関心が高まりそうです。

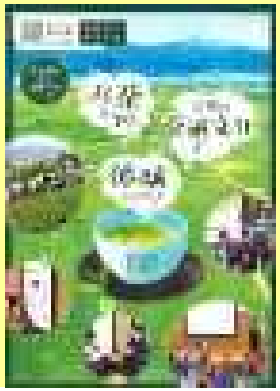
お茶クイズ

⑦ ふじのくに茶の都ミュージアムにおける愛飲・食育の取組

小中学校の施設見学の受入

・施設見学や体験学習を積極的に受け入れ、76校3,309名が来館（令和4年2月末時点）

・学校向けのプログラムや体験メニューを紹介したガイドブックを県内全小中学校へ配布し、展示内容・体験への関心を喚起



学校への茶ミューキットの貸し出し

・来館が難しい学校やお茶の学習を行う学校等を対象に、お茶の学習教材の貸し出しを実施（無料：1回2週間程度）

・実際に茶葉を見たり、香りを確かめながら学習することが可能

・令和3年度の貸出実績は27件（令和4年2月末時点）

授業での活用の様子
（御前崎市立浜岡北小学校）

・ミュージアムを利用することで、実際に見て、体験することができ、学ぶ機会が充実
・貸し出し教材等により、来館できない学校でも活用可能なコンテンツが充実

⑧－1　小中学生向け茶競技会「Cha―1グランプリ」の開催

【目的】
県内の小中学生を対象に、茶を用いた競技を通じて茶への関心と親しみを深めてもらう

【日時】
令和4年3月5日（土）

【開催形式】
オンライン（運営本部と各家庭をWebで中継）

【参加者】
・17市町48人（小学生37人、中学生11人）から応募
・茶に対する思いなどを基に、30人（小学生22人、中学生8人）を選考
　※小学2年生～中学3年生が参加
　※画面上で解答が確認できる最大人数が30人

【競技種目】
①お茶クイズ（全25問）
②外観による茶種当て（全6問）
③闘茶（飲用による茶種当て）（全3問）

		内訳	
市町名	出場人数	小学生	中学生
南伊豆町	1	1	0
伊豆市	1	1	0
裾野市	2	2	0
清水町	1	1	0
沼津市	1	0	1
富士市	2	1	1
富士宮市	3	2	1
静岡市	3	3	0
焼津市	1	0	1
藤枝市	3	1	2
島田市	3	3	0
牧之原市	1	1	0
吉田町	1	0	1
御前崎市	1	1	0
掛川市	4	3	1
袋井市	1	1	0
浜松市	1	1	0
計	30	22	8

令和3年度Cha－1グランプリ参加者内訳
※南伊豆町の参加者は、当日体調不良で欠場

⑧－２　小中学生向け茶競技会「Cha―1グランプリ」の開催結果

・参加者からは「お茶について楽しく学べた」「もっとお茶について知りたい」「これからもお茶をたくさん飲みたい」などの声が寄せられた

・令和4年3月25日（金）に表彰式を実施（知事から表彰状と賞品を授与）

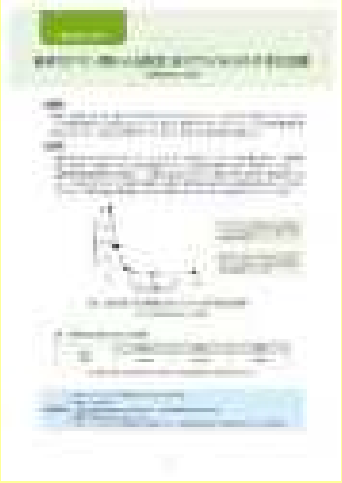
・大会上位入賞者には、世界お茶まつり2022開幕セレモニーで呈茶を依頼
・令和4年度Cha－1グランプリは、世界お茶まつり2022秋の祭典で全国版として開催

⑨ 茶の機能性に関する研究成果集の作成

・緑茶の新型コロナウイルスに対する不活化効果等の公表されている研究成果を紹介
・コロナウイルスに対しては飲用による効果は証明されていないことや景品表示法による表記の注意を喚起

＜掲載した研究成果＞
・緑茶カテキン類による新型コロナウイルスの不活化効果（3件）
・緑茶の摂取頻度と死亡率の関係（1件）
・お茶を飲んでインフルエンザを予防（1件）

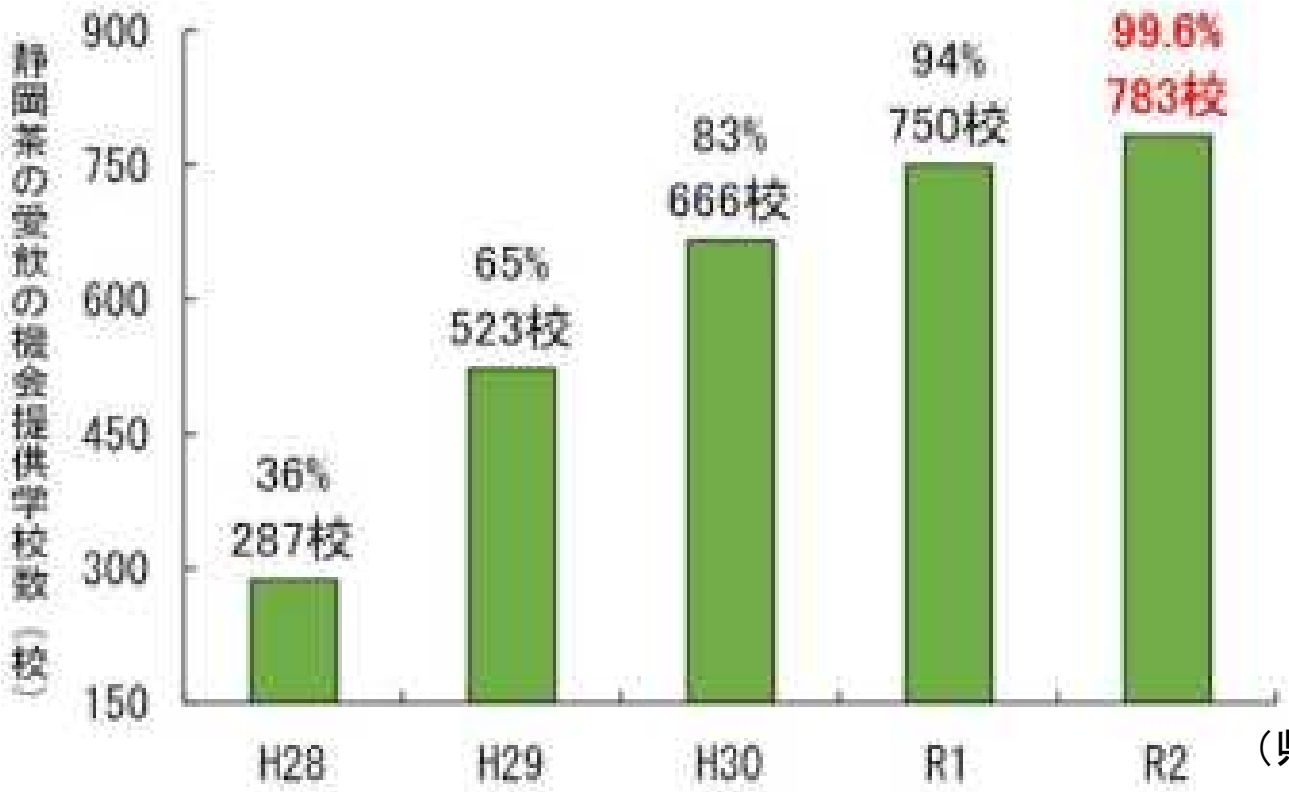
・3月に茶業関係団体等へ配布
・お茶振興課ホームページでデータを公表



これまでに報告された研究成果について、科学的な知見に基づき正確な情報を発信

静岡茶の愛飲の取組状況

・学校現場や茶業関係者の御協力により、小中学校における静岡茶の愛飲の取組は、平成28年度の287校（36%）から、令和２年度には783校（99.6%）に増加



（県教育委員会調べ）

今後は取組の定着化（学校での指導継続、家庭での愛飲の習慣化、地域茶業者と連携した体験活動の継続）が必要

3　協議事項　（1）－①　愛飲の取組状況と今後の目標

＜令和元年度＞

通　年	特定の日（和食の日等）	期間（季節）限定	その他	学校総数
364校（46%）	42校（5%）	302校（38%）	42校（5%）	798校

※通年の取組：やかん204校、水筒79校、給茶機41校、スティック茶24校、キーパー10校、紙パック5校

＜令和2年度＞※複数回答可としているため、合計は100%を超える。

通　年	特定の日（和食の日等）	期間（季節）限定	その他	学校総数
485校（62%）	119校（15%）	218校（29%）	125校（16%）	786校

※通年の取組：水筒446校、やかん145校、紙パック130校、給茶機53校、キーパー12校、スティック茶4校
※R2は国庫補助事業による茶の提供あり。

〔今後の目標〕

〇通年で愛飲に取り組んでいる学校の割合

令和2年度：62%　⇒　令和7年度：70%（目標）

（1）－②　通年での愛飲の取組の拡大について

課　題

・通年でお茶を飲むための給茶機等の設置は、予算上困難
・学校に水筒を持参する取組を拡大するためには、家庭の協力が必要
・お茶の機能性等についての正しい情報発信が必要

〔今後の取組（事務局案）〕

・学校と家庭が連携した静岡茶の継続的な愛飲の促進
　※県や国の予算に頼らない、通年での取組強化
　➔水筒での静岡茶の持参の働きかける「マイボトル持参運動」の拡大

・地域と連携し、学校や保護者向け静岡茶講座等の充実
　➔地域の茶業関係者の協力のもと、学校や保護者に、お茶に関する知識を学んでいただくとともに、おいしいお茶の淹れ方を実践していただく静岡茶講座の実施拡大

・お茶の機能性等の情報発信の強化
　➔緑茶のインフルエンザ予防効果やリラックス効果等お茶の機能性を広く情報発信し、学校や家庭での愛飲の取組を促進

（2）－①　静岡茶の食育の取組状況と今後の目標

・小・中学校において、静岡茶の愛飲と併せ、お茶のおいしさや機能性をはじめ、静岡茶の産地や文化等の理解を深め、「食」に対する意識の向上と健康な体づくりを促進

〔今後の目標〕

〇児童生徒に対する静岡茶の食育機会の確保に取り組んでいる学校の割合

令和２年度：84%　⇒　令和７年度：100%（目標）

（2）－②　静岡茶の食育機会の確保の取組について

課　題

・家庭の協力や学校の教員への理解を促し、家庭、学校、地域が連携した取組が必要
・茶産地以外でも、お茶に関する食育が継続的に実施される体制づくりが必要
・デジタルツールの活用等、多方面からのお茶に関する食育の支援が必要

〔今後の取組（事務局案）〕

・栄養教諭等食育担当者向けお茶の淹れ方講習会の開催
➔栄養教諭等が、小中学校、特別支援学校の授業において、おいしいお茶の淹れ方やお茶の健康効果等、専門性を生かした授業が展開できるように支援
➔講義内容を動画で配信するなど、校内での情報の共有化を促進

・地域と連携した、児童生徒や保護者向け静岡茶講座の充実
➔地域の茶業関係者の協力のもと、児童生徒や保護者に、おいしいお茶の淹れ方を体験し、お茶に親しんでいただく静岡茶講座の実施

・学校における静岡茶の食育カリキュラムモデルの作成及び支援体制づくり
➔お茶の歴史や栽培、製造、淹れ方などを学ぶ食育カリキュラムモデルの作成（モデル校での実践）
➔授業等で活用できるデジタル教材の作成
➔体験活動等の講師派遣に関する情報を提供

・学校の先生を対象とした「教員のための博物館」（ふじのくに茶の都ミュージアム見学ツアー）の実施
➔教員がミュージアムに興味・関心や親近感を持ち、校外学習等で活用してもらうための見学ツアーを夏休期間中に実施　※国立科学博物館が主導し、令和4年度は全国40の博物館で実施予定

（3）新たな認定制度について

課　題

・静岡茶講座やCha－1グランプリ等を通じてお茶に興味を持った児童生徒が、次の目標を持ち、ステップアップにつながる仕組みが必要

項目	事務局案
ねらい	・児童生徒がお茶に関する興味を持ち続けてもらうこと ・お茶講座等を通じて学んだ知識や技能を活用できること ・大人向けの資格（日本茶インストラクターや日本茶アドバイザー等）の取得等につながること
対象	静岡県内の小・中学生（高校生）
認定方法	・県や市町、学校、茶業関係団体等のお茶講座を受講し、お茶に興味を持った人を幅広く認定 ・Cha－1グランプリやT－1グランプリ等、知識や技能を持った人を認定
認定後の活動の場	以下のような場面を想定。 ・県主催のイベントでの呈茶サービス ・100銘茶協議会が開催する銘茶コンテストのアシスタント ・世界緑茶協会や日本茶インストラクター協会等が開催するお茶講座のアシスタント

〔今後の取組（事務局案）〕

➔制度の方向性案をまとめ、関係団体とも調整し、制度の創設に向けて検討